

# 八峰町定住奨励金の支給が終了します

町では町外から転入するなど、要件を満たした方に定住奨励金を支給していますが、平成31年3月31日までに転入された方をもって支給を終了します。

詳しくは下記のとおりです。ご不明な点などありましたらお問合せください。

〈交付対象者〉平成31年3月31日までに八峰町に住民登録をし、1年以上八峰町に居住しているU・Iターン者

(Uターン者の場合、5年以上町外で生活し、改めて住民登録する必要あり)

〈申請期間〉住民登録の日から1年以上経過した後、1年以内または平成32年3月31日のいずれか早い日まで《厳守》

〈返還規定〉住民登録をした日から、5年以内に町外へ転出した場合は、奨励金等を全額又は一部返還していただきます。

〈交付額〉①単身で転入した場合は 150,000円

②家族で転入した場合は 300,000円

※助成金の交付を受けることができない場合もありますので、詳細は下記へお問合せください。

■問合せ先 八峰町企画財政課 ☎76-4603

## CSレター

コミュニティ・スクールからこんにちは



CSディレクターの工藤です。  
3月は卒業式。別れの寂しさ、旅立ちの不安、新たな出会いへの期待など心は揺れ動きますよね。大昔そんなこともあったなと思い出しています。

2月21日、コミュニティ・スクールの第3回学校運営協議会が開催されました。今年度の学校運営についての評価を行うとともに、コミュニティ・スクールの振り返りと来年度の取り組みについての話し合いを行いました。学校ごとの分科会に分かれてそれぞれ立場が違う委員が意見を述べ、協議している様子を見ていると良い意味での緊張感と責任感が漂っていました。こういう議論の積み重ねが「地域とともにある学校」を作り上げていくのだと実感しました。

うれしいことがありました。1月に行ったコミュニティ・スクール小中学生保護者のアンケートで、「八峰町の学校がコミュニティ・スクールに取り組んでいることを知っている」という問いに、8割以上の方が肯定してくれていました。よかった、よかった。その他にも「子どもたちは町の自然・文化・伝統などの良さを知っている」「子どもたちはふる

さとから学ぶ活動に取り組んでいる」は肯定が9割を超え、学校と地域が連携・協力している様子が評価されていると思いました。

課題もあります。「高校生になったとたん地域とのつながりが切れてしまう。もったいない」との意見がありました。来年度にむけて妙案を検討中です。どなたか、いい案をお持ちでしたら教えてください。



第3回学校運営協議会の様子

要予約 【忌明け・回忌法要】

ご家族や少人数での法要は

鮎待夢の会席すし折詰め

7,000円(税込)から配達します  
オードブル・お刺身も承ります



お寿司の宅配と  
お持ち帰り  
すしたいむ  
鮎待夢  
SUSHI.TIME  
能代店  
能代市南陽崎31-20  
TEL.0185-  
55-3277

連載

第97回

## 八峰白神ジオパーク

滝の間「三十三番観音」、ガイド共通講座



「十六番目観音」漢数字が台座に彫られています

◆滝の間「三十三番観音」

八峰町白神ガイドの会の有志で、八森滝の間地区「三十三番観音」の巡検をしました。滝の間の裏山は観音森と呼ばれ、観音を彫った三十三の石像が山道に沿って順番に安置されています。三十三番目観音のみ滝の間自治会が管理する地藏堂に、他の観音像とともに安置してあります。観音森はトレッキングをしながら約3時間で1巡りすることが出来ます。



「地藏堂」最奥の大きな石像が三十三番目観音

を運び、石像を刻んで自分の持山に祀ったとされています。石像の立て札にはそれぞれ仁三郎が巡礼した西国各地の仏閣にまつわる和歌が記述してあります。上の写真は十六番目観音ですが、立て札には左のように記述してあります。  
十六番 山城の国  
清水寺 松風や 音羽の滝は  
きよみづの むすぶ心は 涼か  
るらん  
観音経では、観音は33種類の姿になってあらゆる人を苦難から救済すると説きます。そして、三十三観音信仰は全国各地にあり、巡礼参拝すると犯した罪業が消滅し、極楽往生できると言われています。滝の間の三十三番観音も坊主や女性、子どもなど一体一体異なった姿をしています。

◆ガイド共通講座

2月2日、3日に秋田県ジオパーク連絡協議会主催のガイド共通講座が男鹿半島・大潟ジオパークで行われました。講座では講演会や座談会が行われ、秋田県内からガイド約60名が集まりました。八峰白神ジオパークからも7名が参加し、各地域のガイドが抱える共通の課題について情報共有しました。



講演会では心を静める座禅体験も行いました

1日目は男鹿市の大龍寺を会場に、住職の三浦賢翁・三浦グレッチェン夫妻による講演会とお寺のミニツアーが行われました。アメリカ出身のグレッチェン氏はチベットやネパールを旅した自身の経験をもとに「秋田

2日目は参加者で座談会を行い、ガイド中に困った経験談やガイドのコツなどについてテーマごとに話し合いました。今回の講座を経て、ガイドのスキルアップと同時に県内のガイド同士の交流が深まりました。



座談会は終始和気あいあいと進みました

は素朴な自然が魅力で、外国からわざわざ訪れる人は少なからず冒険心を持っていると思う。現地の人の英語の堪能さよりも、ワクワクするような体験ができるかが大事」と語りました。